

「歴史」と「絆」のまち

常磐学区

TOKIWA



新世紀岡崎に伝えたい

常磐っ子のメッセージ



常磐のまちにはお寺や鬼まつりなど、伝統的なものがたくさんあります。

将来は、この伝統を残しながら、より住みやすいまちに発展していくといいです。



奥 萌花さん（滝新町）

地域の方々が、学校のトンボ池の整備やそよかぜ広場のベンチづくりをしてくださいました。

お年寄りの方が岩山や校庭を整備してくれました。とってもうれしかったです。



佐藤 遼さん（滝町）



山口 真結菜さん（滝町）

私は緑豊かで、きれいな青木川が流れる常磐学区が大好きです。この手でアユの放流もしました。

これからもこの常磐の自然を大切に守っていききたいです。



編集後記

山野の木の實を待ちこがれて食べたこと。

初夏の青木川の清涼感ある匂い。

日が暮れるまで川魚取りに夢中になって遊んだこと。

石屋の槌音、ガラ紡の機械の回る音。みな懐かしい思い出だ。

瀧山寺・鬼まつり・瀧山東照宮は、常磐学区のコミュニティ形成の大切な歴史文化財です。常磐学区は今、滝団地・緑風台の新しい住民と旧来の滝町住民とが互いに理解を深め、自然・歴史文化を核とした、新しい常磐学区の絆づくりを進めています。

〔作成委員会〕 中根 茂/丹羽 恒夫/小林 恒己/石原 義正/中根 守久/古本 峯夫/中根 政信

協力：中根 清巳/山田 亮盛/小原 道則/常磐小学校 〔参考資料〕 岡崎市史/鈴木智彦写真集「瀧山寺 鬼まつり」

〔表紙写真〕 瀧山寺・仁王門の前に常磐小学校の児童と先生が集結（2015年11月撮影）



昔から地域で大切にされてきた鬼まつり。写真は昭和30年頃の様子

滝町のなりたち

— 歴史をみる —

六八六年 ■ 朱鳥1

一一二二年 ■ 保安3

一二〇一年 ■ 正治3

一二二一年 ■ 承久3

一二六七年 ■ 文永4

一四四〇年 ■ 永享12

一六四六年 ■ 正保年間

一六四六年 ■ 正保3

江戸時代

一八七三年 ■ 明治6

一八七三年 ■ 明治6

一八七三年 ■ 明治6

一八七三年 ■ 明治6

一八七三年 ■ 明治6

一八七三年 ■ 明治6

一八七三年 ■ 明治6

一八七三年 ■ 明治6

一八七三年 ■ 明治6

一八七三年 ■ 明治6

一八七三年 ■ 明治6

一八七三年 ■ 明治6

一八七三年 ■ 明治6

一八七三年 ■ 明治6

一八七三年 ■ 明治6

一八七三年 ■ 明治6

一八七三年 ■ 明治6

DATA

□人	□	4,322人
男性	2,144人	
女性	2,178人	
□世帯数	1,604世帯	
□面積	5.03km ²	
[2016年7月1日現在]		

町名「滝」の由来

天武天皇（奈良時代）の御代、行者の役小角は、この地に一堂を建て吉祥寺と称したと伝えられています。ある日、行者が修行のため溪流に沿って山中に分け入ったところ、そこに滔々と落下する一条の滝がありました。この辺りはまさに人跡未踏、修道の霊地かと思われました。行者は岩に坐し、経を誦んずること数日、眼前の滝壺の底に大きな龍が金色に輝く仏像を守護しているのを発見しました。行者は滝壺に潜り、仏像を袈裟に包んで奉持しました。輝くもの、それが金色の薬師如来でした。この滝壺が「三界の滝」（↓地図A）であり、これを語源として、この地を「滝」としたものです。

青木川堰堤とガラ紡績

常磐地区を東西に横断する青木川には、江戸時代より搾油用・精米用の水車がありました。野村茂平次らによって明治10年末に水車動力を利用したガラ紡糸が製造されると、この成功をみて、水車の転用が始まり、明治17年には13基がガラ紡水車となりました。

山岳修行者・役小角が青木川の滝壺から薬師如来を拾い上げ、これを安置するため「吉祥寺」を建てた（後に「瀧山寺」と改名）：1

比叡山で修業した仏泉上人が、荒廃した瀧山寺を再興し、本堂を建立（↓地図C）

源頼朝の従兄弟の寛伝上人が、頼朝公三回忌に惣持禅院を創建し、本尊として聖観音像（運慶作）を安置した

承久の乱後に三河守護の足利氏が壇越となり、最盛期を迎える

瀧山寺の三門（仁王門）が建てられた（↓地図6）：2

松平信光が滝村に萬松寺（↓地図1）を建立

弘願寺（↓地図F）の建立

瀧山東照宮（↓地図D）の建立。徳川家光の命により、天海僧の弟子亮盛上人が東照宮を造営

山間で耕地の少ない滝村は、花崗岩を豊富に有したため、神社仏閣、石仏、墓石、土木工用石材を採掘・加工することで生計を立てた

その後、涸れることのない青木川の急流の露岩に着目し、堰堤を築き、流水を取り入れて水車を動力とする事業（搾油・精米）を始めた

常磐小学校の前身が瀧山寺青龍院に義校として開校

滝村に9基の水車を有し、水車を動力とするガラ紡績が発展した

滝村、米河内村など7村が合併して額田郡常磐村となる

小学校令の改正により青龍尋常小学校となる

祭りがつなぐ地域の絆

鬼まつりは地域をあげて取り組む最大の行事。毎年およそ200名の学区民が警備や消防担当、来賓係、駐車場係、炊事係など裏方の仕事も含めて、それぞれの役割をしっかりと果たしながら祭りの成功のためにがんばっています。

また、新しく住民になった人たちも参加することで、地域の絆を深める大切な機会にもなっています。



祭りを通じて地域の心が一つになる

COLUMN 瀧山寺の鬼



鏡餅を持ち、うれしそうに左右に回す鬼。この鏡餅は鬼まつりの翌日に細かく切り分けて滝町全戸に配られる

一般的に鬼は悪いものと思われていますが、鬼まつりに登場する鬼は幸せをもたらしてくれる善い鬼です。火まつりで松明の火に追われるように見える鬼は、実は豊作を喜んで若者と一緒に火の中で踊っているのだといわれています。最後に鏡餅を持った鬼がうれしそうに火の中を動き回る様子は、むしろほほえましい姿ともいえるでしょう。

地域のつながりを象徴する 学区の新しい宝もの 花園農園



毎年秋には子どもたちが芋掘り体験を楽しんでいる

日本の高度成長期にあたる昭和40年頃から大規模な宅地造成が始まった常磐学区。昭和50年代には全国各地から近隣の企業に勤める人たちが移り住んできて滝新町が誕生しました。

滝新町の新しい住民と昔からの常磐の住民は、学校行事などを通じて交流を深めています。平成26年には県道の交差点近く、ちょうど滝町と滝新町の中間あたりに花園農園が完成。両町の住民と一緒に花を植え、サツマイモの栽培（一年表6）や芋煮会を始めるなど、子どもも大人も楽しく集える場所が誕生したことによって両町の絆はさらに強まっています。



災害時の炊き出し訓練も兼ねている花園農園の芋煮会



三河路に春を告げる 瀧山寺鬼まつり

鎌倉時代から伝わる

天下の奇祭

「あっぱれ所や 好い所
年明け 春来たり
農時のうとも近うなったり…」

本堂の回廊が多くの炎に彩られる火まつり。瀧山寺鬼まつりのクライマックスを飾るにふさわしい迫力だ

農作物の豊作を祈願して三河路に春を告げる祭りといわれている瀧山寺（↓地図C）鬼まつり。その歴史は遠く鎌倉時代までさかのぼり、源頼朝が祈願のために始めたとも伝えられています。その後、室町時代末期に一度は行われなくなるものの、徳川三代將軍以降は幕府の行事として復活。天下の奇祭としてその名を広く知られるようになり、愛知県の無形民俗文化財にも指定されています。

天下泰平・五穀豊穡を願う

祭りは三門（仁王門）（↓地図G）から瀧山寺までの約1kmを練り歩く大松明・十二人衆登山行列から始まります。行列が瀧山寺に到着した後は境内で仏前法要と鬼塚供養が行われ、長刀振り、田遊び、田植歌の3つからなる庭まつりで天下泰平と五穀豊穡を願います。

そして長刀振りの終了を合図に鐘や太鼓が乱打されると、赤々と燃える数十本の巨大な松明を持った若者たちとともに、祖父面・祖母面・孫面の三鬼（↓年表3）が登場。国重要文化財の本堂を舞台に、炎とともに回廊を乱舞する勇壮な火まつりでクライマックスを迎えます。



三門（仁王門）から出発して、瀧山寺までの道を練り歩く大松明・十二人衆登山行列



本堂の中でも大松明の炎が燃えさかる

鎌倉・室町時代の会話や所作が今に伝えられている田遊び。独特の言い回しが特徴だ

庭まつりの長刀振り。長刀を大きく振り回しながら前後に移動する



昭和30年に常磐村と岡崎市が合併したことを記念した石碑



平成2年に撮影された滝団地の全景（写真下）と滝団地の皆さん（写真上）



花園農園でサツマイモの苗を植えるかおる幼稚園の園児たち

一九四七年 ■ 昭和22
一九五三年 ■ 昭和28
一九五四年 ■ 昭和29
一九五五年 ■ 昭和30

学制改革により常磐村立常磐小学校となり、常磐中学校も開校
瀧山東照宮本殿などの建造物が国の重要文化財に指定される
三河路に春を告げる祭りといわれる天下の奇祭、瀧山寺の鬼まつり（↓特集）が愛知県の無形民俗文化財第1号に指定される…3
額田郡常磐村が岡崎市と合併。岡崎市立常磐小学校・常磐中学校（↓地図B）となる…4
常磐保育園開園

一九六九年 ■ 昭和44
一九七一年 ■ 昭和46
一九七二年 ■ 昭和47
一九七四年 ■ 昭和49
一九七六年 ■ 昭和51
一九七七年 ■ 昭和52
一九七八年 ■ 昭和53

昭和42年に始まった瀧山寺の大修理が3月に完工
昭和44年に始まった瀧山東照宮の改修工事が完工
常磐小学校開校100周年
日生不動産岡崎滝団地が竣工、分譲開始
常磐小学校の新校舎（現在の校舎）完成、移転（↓地図H）
岡崎滝団地完成…5
かおる幼稚園開園

一九八七年 ■ 昭和62
二〇〇三年 ■ 平成15
二〇〇八年 ■ 平成20
二〇一一年 ■ 平成23

常磐小の学区再編により、米河内町が分離して常磐東小に編入
緑風台団地完成
滝団地北交差点完成。小呂―滝団地―阿知和の道路が開通
南大須鴨田線（県道335号）のバイパス完成。仁王門から大井野口までの交通量が少なくなり、安全性が確保される
瀧山寺三門（仁王門）の落慶法要（改修工事完了）

花園農園の開設。2つの町内会が協力してサツマイモやコスモスの栽培を進める。収穫祭として芋煮会のイベントも開催（↓特集）…6

COLUMN 盛んだった 滝の石材採掘

昭和の時代には27基の水車が稼働しましたが、大正末期の電力導入と戦後の伊勢湾台風により水車動力は減少。昭和37年には残った2基も消滅しました。
日陰橋より眺められる3段の堰堤（↓地図E）は、当時の産業跡地であり、産業遺産としても価値のある全国でも珍しい姿を見せています。

全国有数の石製品工業のまちとして発展してきた岡崎。

滝や米河内周辺から切り出される豊富で良質な石材は、古くは岡崎城の築城時、建築資材や石垣として使われたこともあり、以来、岡崎で発展を続ける石屋町の業績を支えてきました。

大沼街道筋にはいくつも丁場（採石場）がありましたが、中でも有名だったのが滝の三界でした。昭和初期、岡崎・額田の石材採掘業者が組織した「三河石材同盟組合」は320名のうち、滝と米河内で155名。組合長には滝の業者が選出されていました。



蒲郡市の竹島にある八百富神社の鳥居にも滝で採れた石が使われており、石碑にも瀧村の文字が残されている



F 弘願寺
真宗大谷派の寺院。梵鐘(ぼんしょう)は第2次大戦で供出された後、昭和22年に新しく造営された



E 青木川の堰堤
かつてはここでガラ紡績の水車が回っていた。堰堤には当時の水車の跡が今も残されている



D 瀧山東照宮
正保3年(1646)建立。昭和28年に国の重要文化財に指定されており、日本三東照宮の一つに数えられている



H 常磐小学校
現在地に移転したのは昭和51年。平成24年には、明治6年の開校から140周年を迎えた



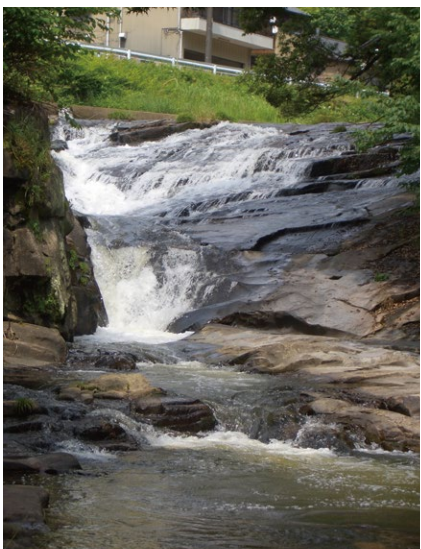
G 瀧山寺・三門 (仁王門)
国の重要文化財。瀧山寺から約1km離れているが、鎌倉時代にはこの区間全体が寺の境内だった



I 萬松寺
永享12年(1440)、松平信光が龍沢永源を開山として建立した曹洞宗の寺院



J 水くぐり橋
大正10年に仁王橋が架設される以前の大沼街道で、今も川の中には石踏が残されている



A 三界の滝
朱鳥元年(686)、山岳修行者の役小角はこの滝壺から薬師如来を拾い上げたといわれている



C 瀧山寺
奈良時代に創建された古刹。源頼朝の等身大の聖観音像など、国の重要文化財も数多く保存されている



B 常磐中学校
昭和22年に開校した歴史ある中学校。美しい山の緑に囲まれている

常磐学区 まちなものがたりマップ

「常磐」は松を意味するとされ、転じて幾久しく栄える自然豊かな環境を指します。

鬼まつりで有名な瀧山寺、家康公ゆかりの瀧山東照宮など国の重要文化財を始めとする歴史上価値の高い建造物が数多く見られ、周辺の山並みや河川と一体となった歴史的な風情が感じられる地域です。